

「北極航路 (1)」

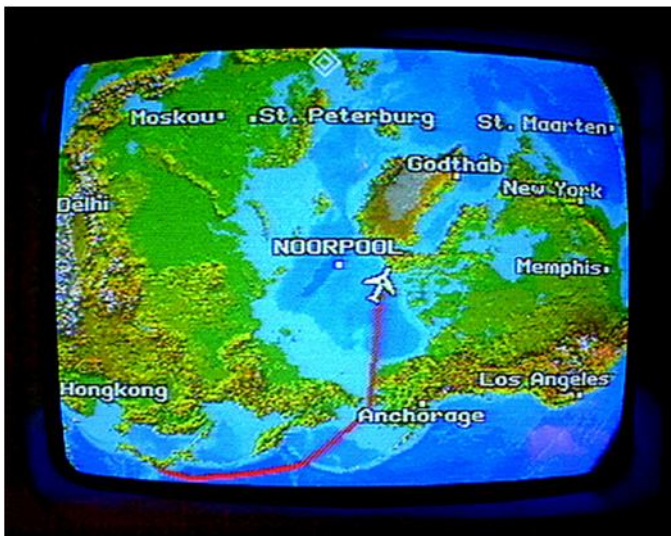
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

現在、日本からヨーロッパへ行くには、シベリア経由が最短コースである。モスクワを除けば、成田から一番近いヨーロッパの就航都市は、ヘルシンキである。ヘルシンキ線は、フィンランド航空に加え、最近では日本航空のボーイング 787 が就航し、非常に快適になった。この冬も JAL のヘルシンキ線に搭乗予定である。

しかしかつては、シベリア経由の航空路が解放されておらず、日本～欧州便のほとんどは、アラスカのアンカレッジ経由であった。(現在アンカレッジ行きの直行便はなく、ソウルやシアトル経由。) その後、シベリア航路が解放されてからも、北極経由の便は残っていた。私はアムステルダムに行くときに、一度乗ったことがある。実に 13 時間半もかかった。

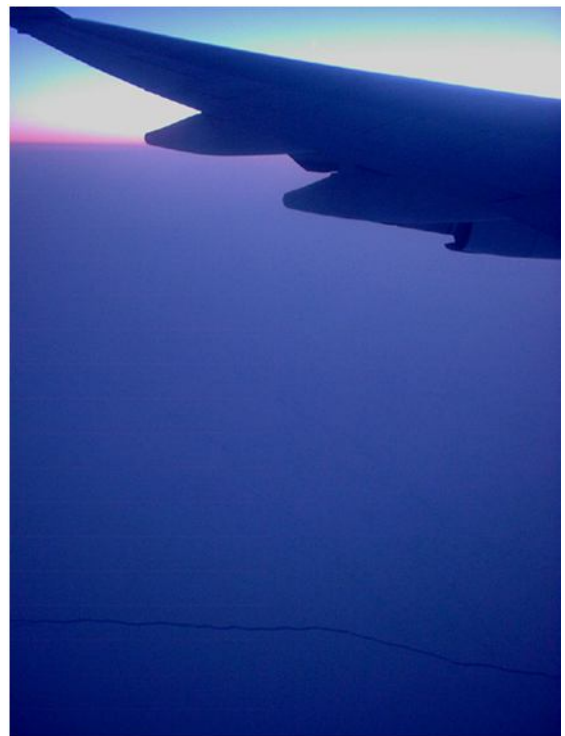


「ジャンボジェット機のcockpit」 今ではテロやハイジャック対策で、操縦席を見学するのはほとんど不可能だが、以前は頼めば見せてくれた。この機でも、航空機関士席に座らせてくれて、30 分近くも、いろいろと教えてもらい、楽しかった。「長距離便のパイロットは、暇だよ。」と言っていた。



「KLMの機内モニターの航路案内」 成田を出発したボーイング 747 (ジャンボジェット機) は、カムチャッカ半島をかすめ、ベーリング海峡付近を通過、北極点近くの、北緯 82 度を通過した。機上ではあったが、私が地球上で、最も北まで行った体験である。

現在、よほどの事情がない限り、北極回りの航路での運航はあり得ない。KLMも通常はシベリア経由なのだが、何かの事情で、たまたま北極経由に変更になったのだろう。しかし、この航路からの眺めはすばらしく、非常に貴重な体験となった。時期が 3 月下旬で、極夜が明けていたのも幸いした。



写真は、北極点に最も近づいた時の地上 (実は海上) の様子である。北極点に近いことを、機長がアナウンスしてくれた。凍った北極海を、機上から眺められ、貴重な体験となった。(つづく)